

一般部参考手本 六月

〈実用部〉

はげしき雨風 北の海に
山がす荒波 たけりくるう
その夜も 灯台守り人の
どうとき 誠よ海を照らす
氏名

〈鑑賞部〉

世の中よ
道こそなけれ 思入り
山のおくにも 鹿ぞ鳴くなる
自天正徳天皇御成のうた
が

世の中よ 道こそなけれ 思入る 山のおくにも 鹿ぞ鳴くなる

〈臨書部〉 風信帖

及室山集會一處
量高仏法大り因如

及室山。集會一處。商量佛。法大事因縁。

学生部参考手本



〈中学〉 〈入門〉
夏を愛する心とは
心強きひと
岩を砕く波のような
僕の父親
中学 年名 前

はみがき大好き
わたしの歯は
白く健康な
虫歯のない歯
小五 名 前



〈小三〉
てるてるぼうず
あした天気に
しておくれ
小二 名 前

〈小四〉

天を見上げて
耳をすまそう
雲のわらい声か
聞こえて来るよ
小四 名 前



〈小二〉
てんでん
むしむし
かたつむり
小一 名 前

〈小六〉

一人の小さな手
何にも出来ないけど
皆の手と手を合わせれば
大きな何かが出来る
小六 名 前

〈小三〉

雨上がりの空に
大きくなかった
にじのはし
小三 名 前



〈幼児〉
あまがえる
ようなまえ